

新型コロナウイルス感染拡大による ニーズ把握のための 子ども・保護者アンケート 【第2回】

子どもの貧困に、本質的解決を。

Learning
for
All 

新型コロナウイルス感染拡大により、**4月7日**に「緊急事態宣言」が出されて約1か月半が経ちました。しかし「緊急事態宣言」が出される前から学校が休校になるなど、子どもだけでなく、その保護者にも普段の生活を送るのが難しい状態が今も続いています。この社会状況によってもっとも悪影響を受けやすいのが生活困窮世帯であり、そのような様々な困難の中にいる子どもたちにLearning for All（以下、LFA）は向き合ってきました。

こんな状況だからこそ、子どもと世帯への支援により一層取り組む必要があります。そのためには子どもや世帯に寄り添い、彼らの声を聞くことが必須であると考えております。

そして4月下旬に子どもや家庭が「本当に必要としているもの」が何なのかを把握するために、第1回アンケート調査を実施し、その結果から見えた世帯ニーズに基づき支援方針を固めました。（第1回アンケートの結果は[こちら](#)）

それから約1か月、時間の経過とともに状況は変わり、同時に必要な支援の内容も変わってくる可能性があると考えております。時間の経過とともに変わるニーズに合わせて支援をしていくために、この度LFAでは第2回アンケート調査を実施しました。

第2回アンケート結果を見た皆さまにもこのコロナ禍での子どもたちや家庭の現状を知ってもらい、一緒にこの課題を解決するためのチェンジメーカーとして温かいご支援をいただくと幸いです。

NPO法人 Learning for All

第2回

「新型コロナウイルス感染拡大によるニーズ把握のための子ども・保護者アンケート」

■目的：緊急事態宣言下で生活する、貧困など困難を抱える家庭や子どものニーズを正しく把握するため

■対象

①：2020年5月現在 小学生～高校生（6～19歳）

※LFAが運営する学習支援や居場所支援の拠点へ通っている不登校や低所得世帯などの困難を抱える子どもたち

②：①の保護者

■手法：webと電話など個別ヒアリング調査

■期間：2020年5月11日～5月19日

■回答数：子ども：45人、保護者：46人

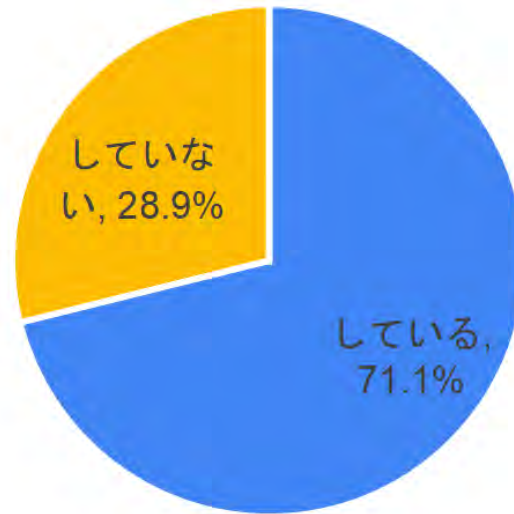
■本調査に関する問合せ NPO法人Learning for All
pr@learningforall.or.jp

※職員は現時点（5月22日）で在宅勤務中のため、何かありましたらメールにてご連絡くださいませ。

子ども向けアンケート

❖ 子どもアンケート ①オンライン支援の利用状況

Q1.あなたは、パソコンやスマートフォンを使って、先生やスタッフから勉強を教えてもらったり、お話ししたりしていますか。

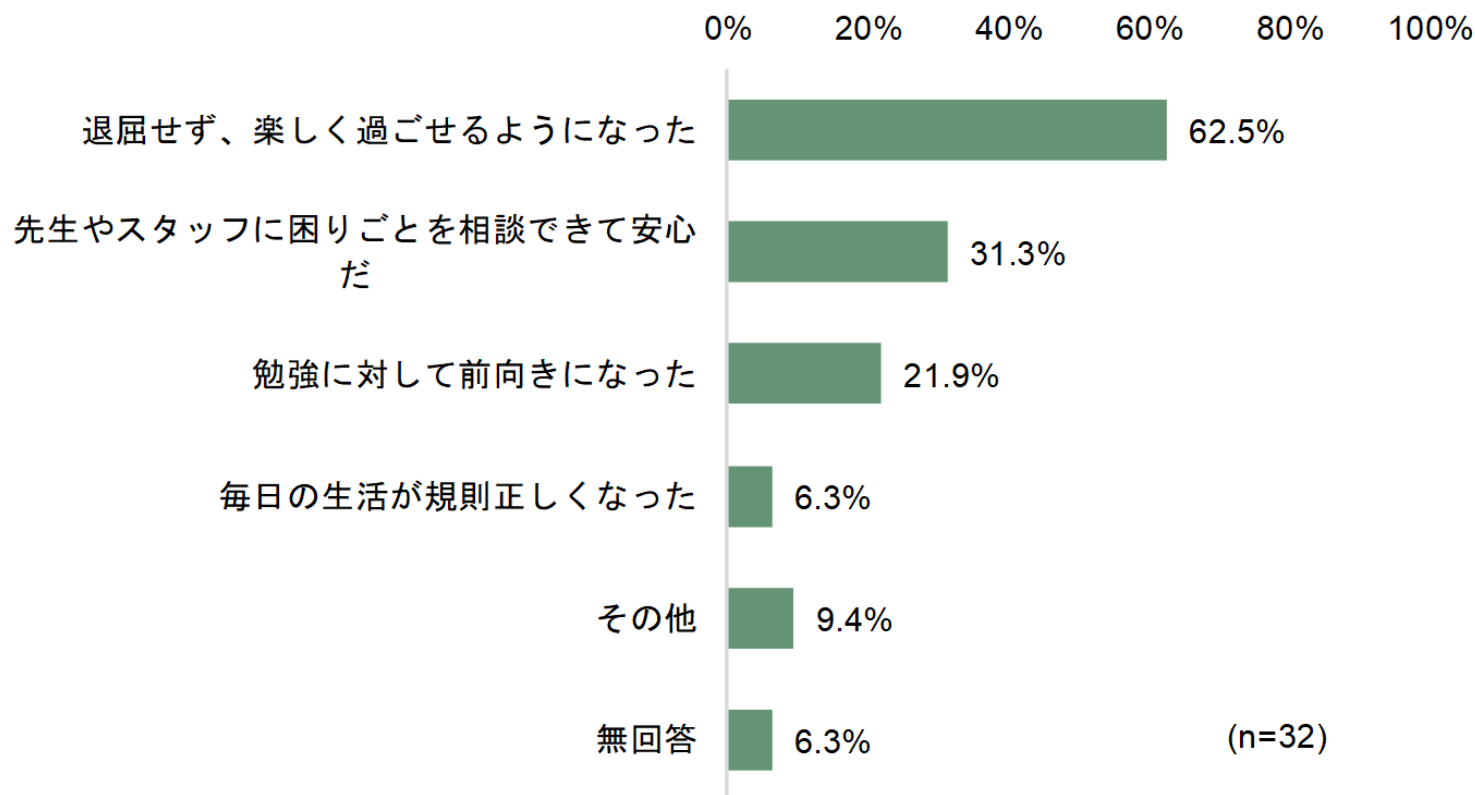


(n=45)

- オンライン支援を実施していない拠点を利用する子どもたちも含めた回答となりますが、本アンケートに回答してくれた子どもたちの多くがオンライン支援を利用しています。

❖ 子どもアンケート ②オンライン支援の成果

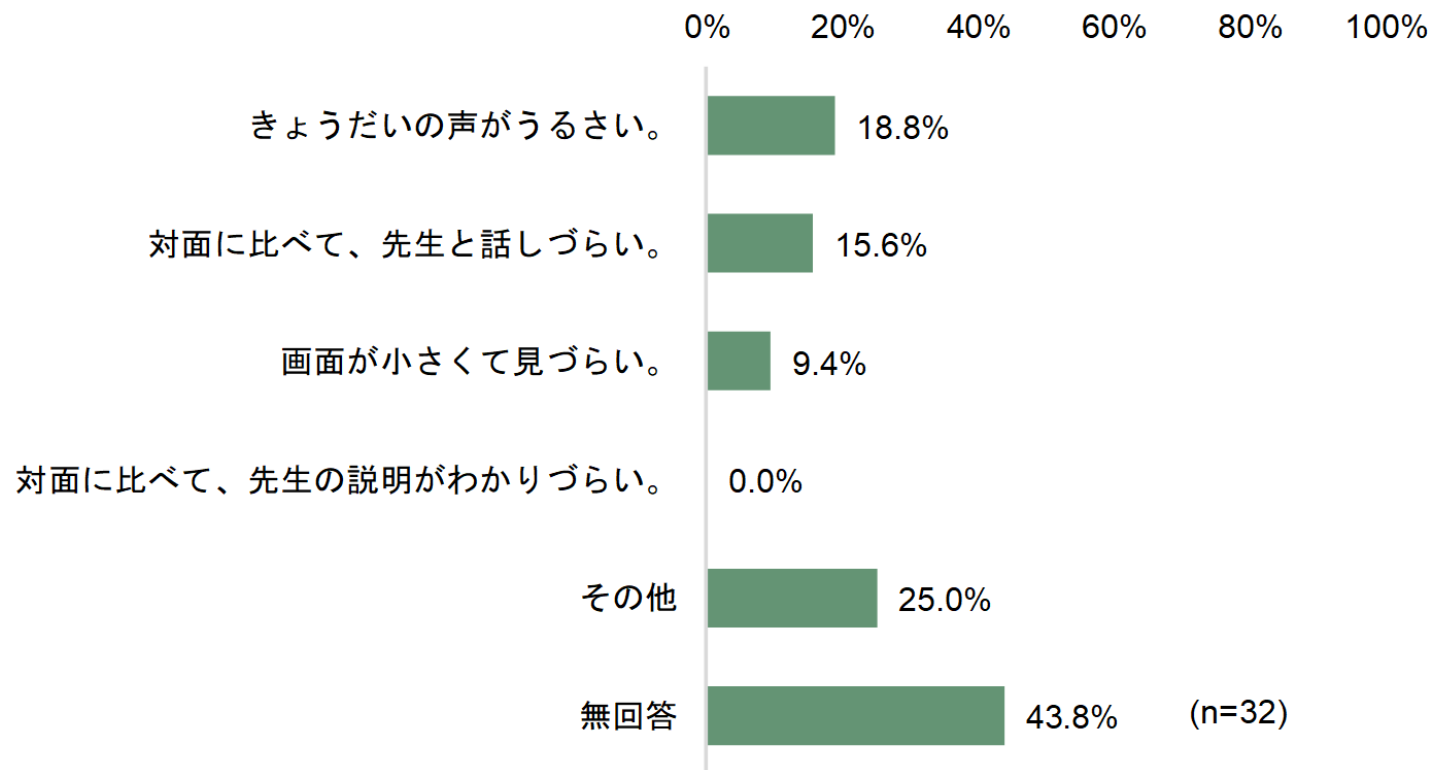
Q2. 「オンライン支援を利用している」と回答した方にお聞きします。
パソコンやスマートフォンを使って先生やスタッフから勉強を教えてもらったり、
お話ししたりするようになってから自分にどのような変化がありましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。



- ほとんどの子どもたちが、オンライン支援の成果として前向きな気持ちになった、安心感が得られた等何らかの良い変化を自分自信で感じています。

❖ 子どもアンケート ③オンライン支援で気になること

Q3. 「オンライン支援を利用している」と回答した方にお聞きします。
パソコンやスマートフォンを使って先生やスタッフから勉強を教えてもらったり、
お話するときに気になることとして、あてはまるものをすべてお選びください。



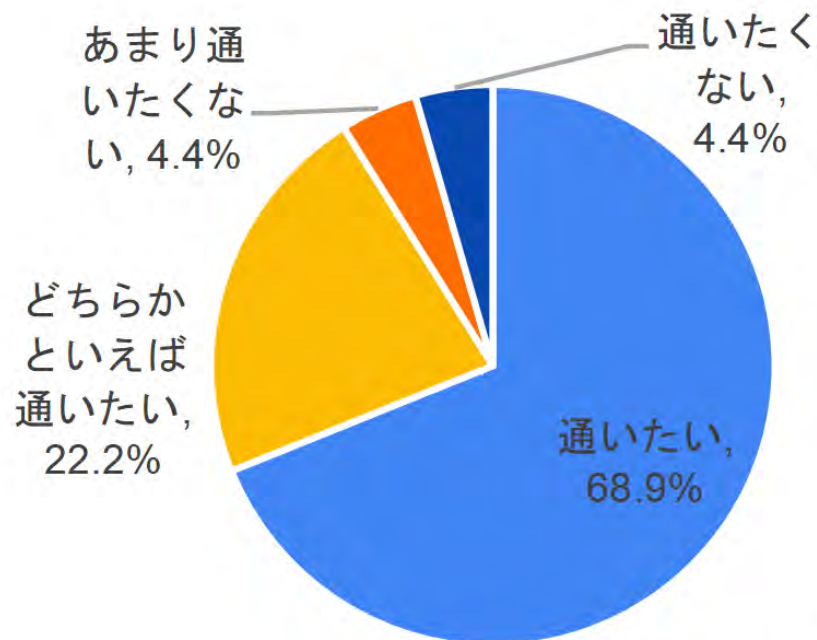
- Q2から一定の良い効果をお子自身が実感している一方で、Q3では「きょうだいの声がうるさい」などの回答があり、オンライン支援の環境を整えることの難しさが伺えます。
- また、「対面に比べて、先生と話しづらい」という回答から、オンライン支援に切り替わる中でこれまでの対面コミュニケーションとは異なる方法に戸惑いもあるようです。

Q3の自由記述の部分

- ノートをとる時間がない。
- たまにお母さんの声がうるさい(笑)
- もっと勉強する時間が欲しい。オンライン授業の時間を増やして欲しい。
(LFAが運営する) 学習支援拠点で勉強するのは違うからちょっと難しい。
- 先生の声が途切れて聞こえなくなってしまう。
- 先生の声が聞きづらい時がある。

- オンライン支援の環境・授業運営面での気になることが挙げられています。
- 授業時間を増やしてほしいという声もあり、支援をより拡充するニーズがあることが伺えます。

Q4.先生やスタッフ、友達と直接お話ししたり、遊んだり勉強を教えてもらえるとしたら、あなたはそうした場所に通いたいですか。

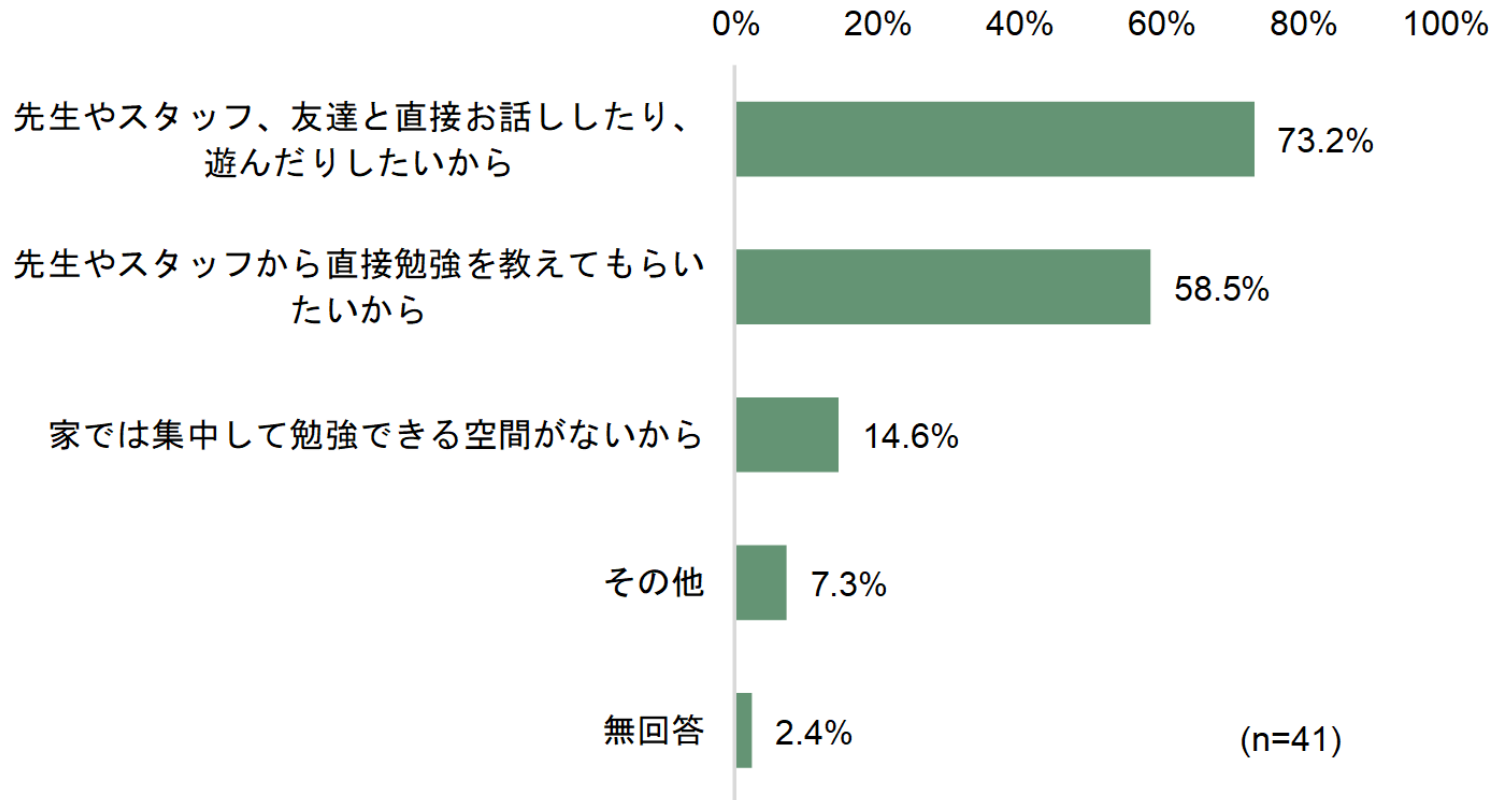


(n=45)

- 「通いたい」「どちらかといえば通いたい」合わせて90%以上の子どもが対面支援の場に通うことを希望しています。

❖ 子どもアンケート ⑤対面支援を利用したい理由

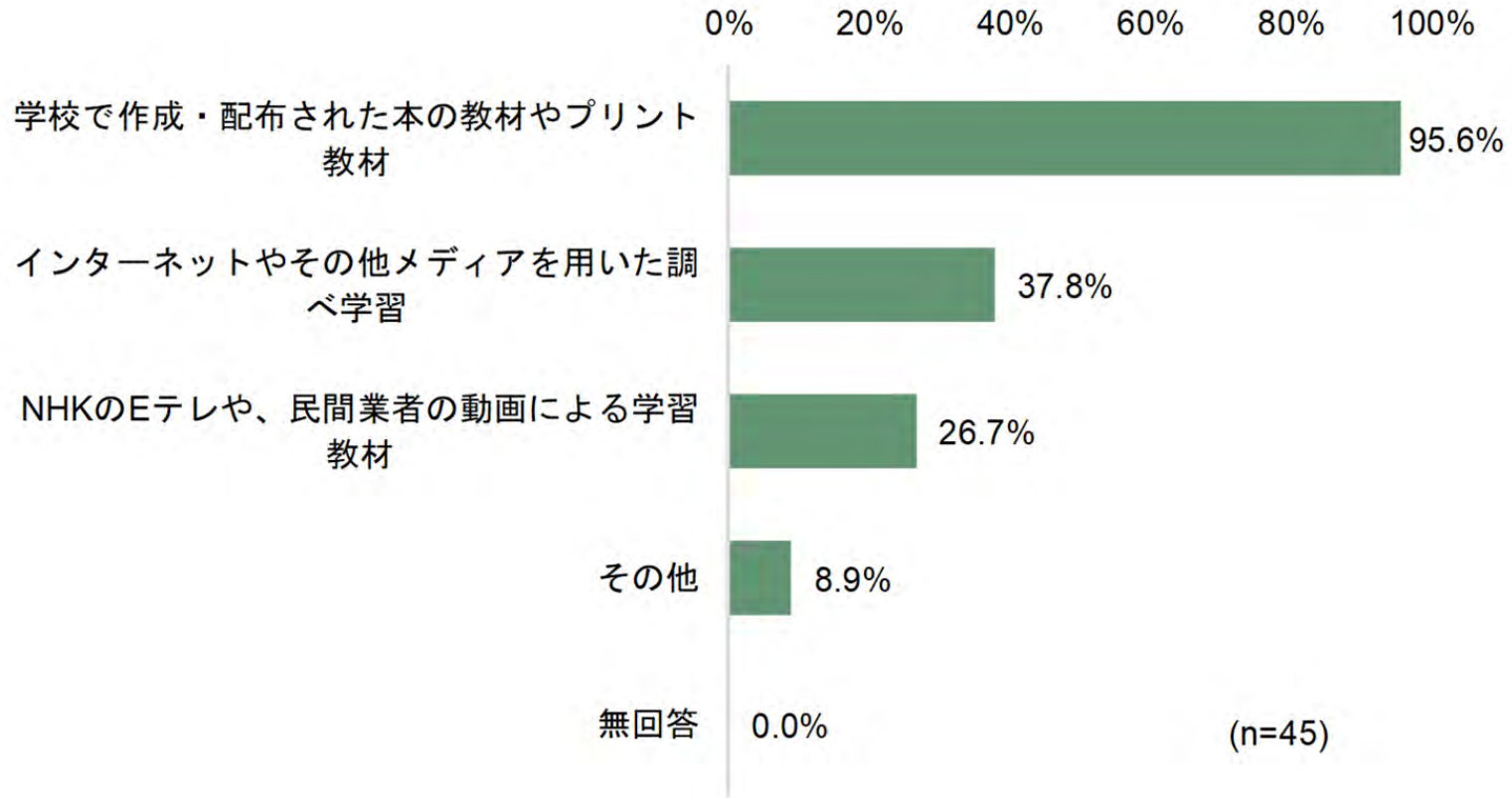
Q5. Q.4で対面支援の場に「通いたい」「どちらかといえば通いたい」と回答した方にお聞きします。
その理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



- 先生やスタッフ、友達と直接会って話したり遊んだり、勉強をしたりしたいというニーズがあります。
- また、「家では集中して勉強できる空間がないから」としている子どももあり、オンライン支援の環境を整えることが難しいケースがあることがわかります。

❖ 子どもアンケート ⑥休校中の宿題

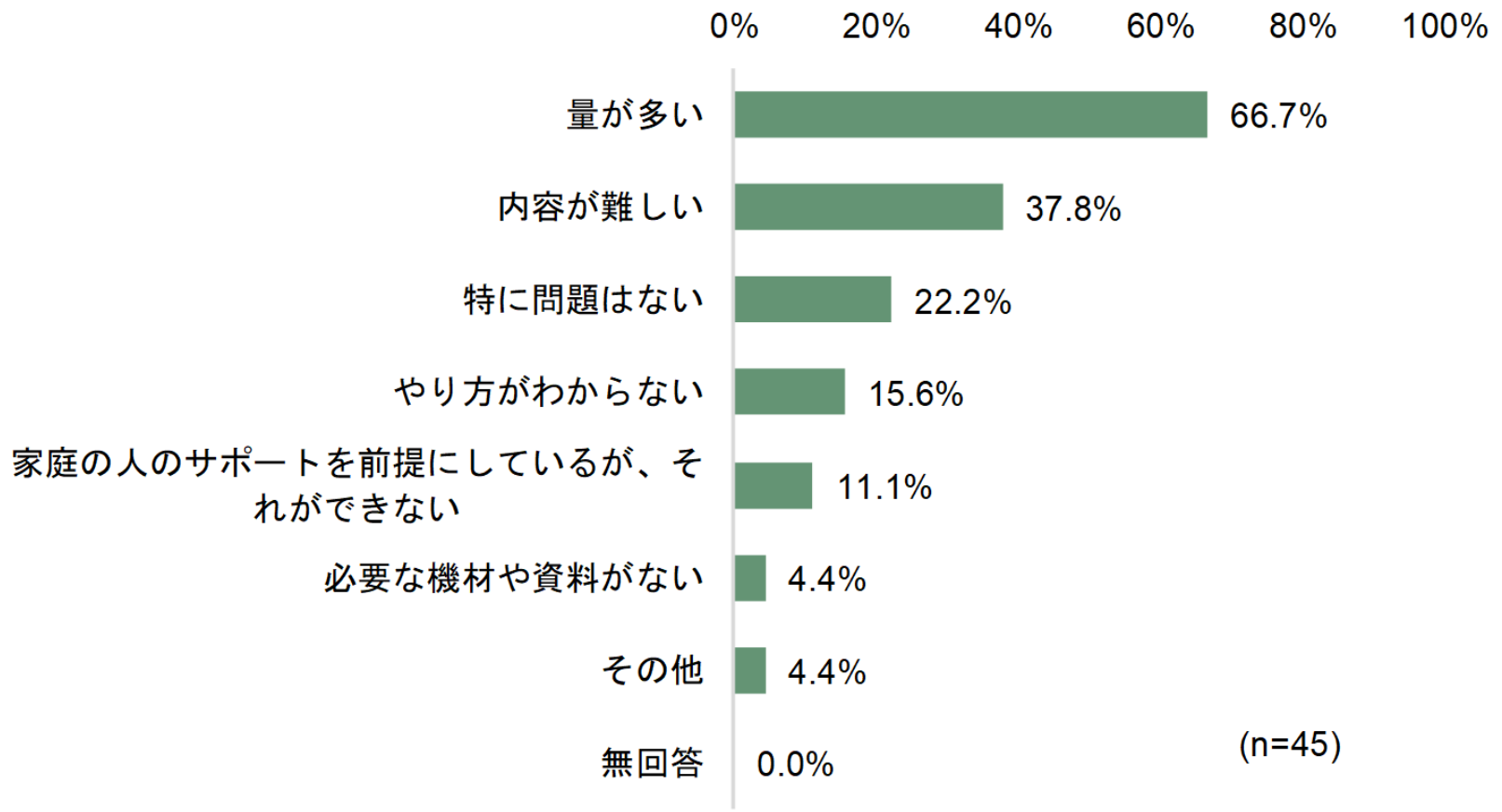
Q6.学校からは、休校期間中の課題としてどのような宿題が出されていますか。
あてはまるものをすべてお選びください。



- LFAの居場所や学習拠点に通う子どもたちの多くが配布された課題に取り組んでいることがわかります。
- オンライン支援のような双方向でのコミュニケーションを行うような指導は、まだあまり実施されていないようにアンケート結果からは見受けられます。

❖ 子どもアンケート ⑦宿題を進める上での難しさ

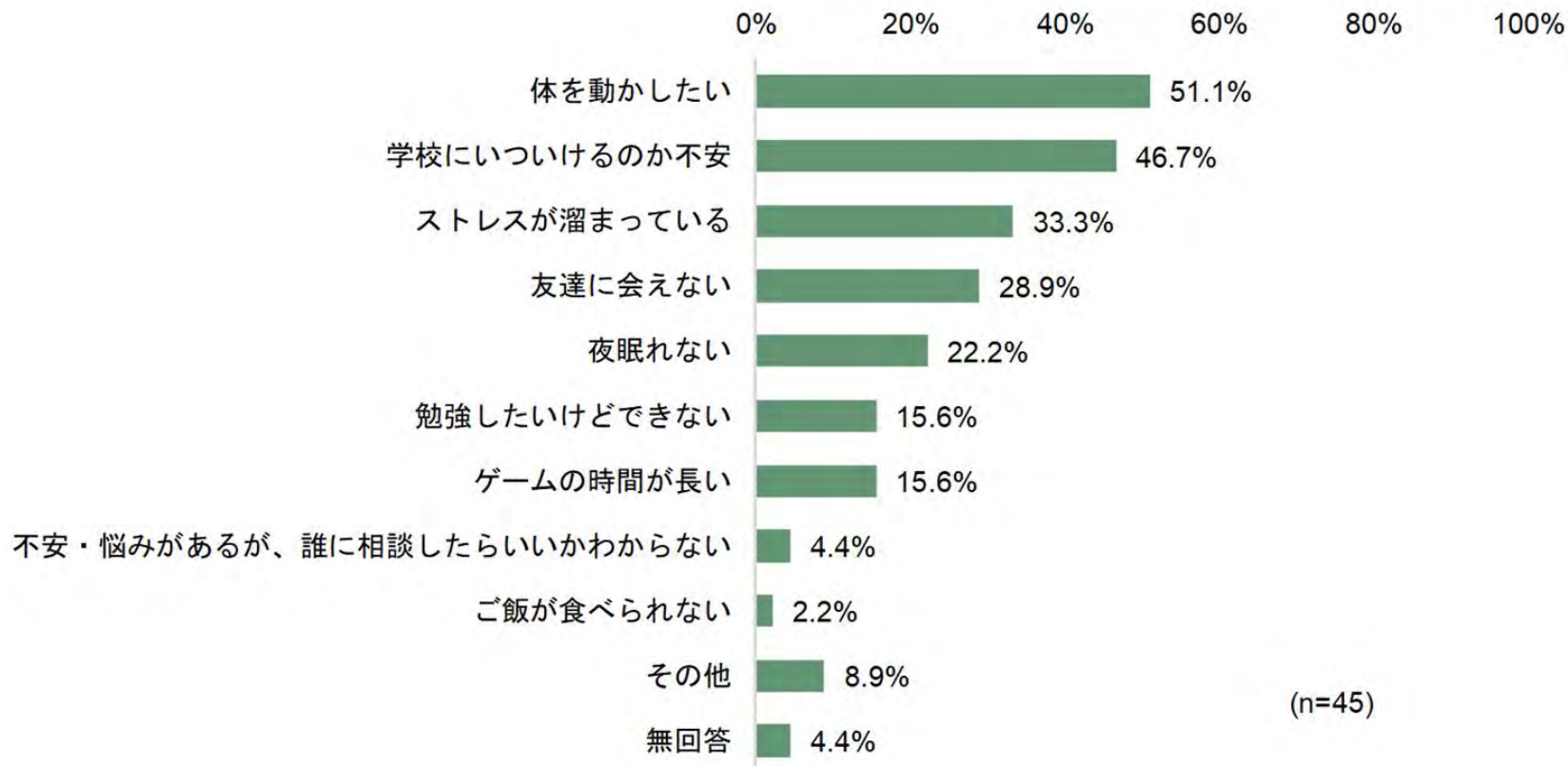
Q7.学校から出されている宿題を進める上での難しさは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



- 宿題に取り組む難しさを感じている子どもが多くいることがわかります。
- 「量が多い」「内容が難しい」等の理由が上位にあることから、学校の宿題を全て一人で進めることは難しく、誰かと協力し合う、あるいは教えてもらいながら進める必要があることが伺えます。

❖ 子どもアンケート ⑧生活して感じることに

Q8.生活していて感じる事があれば教えてください（いくつ選んでもかまいません）

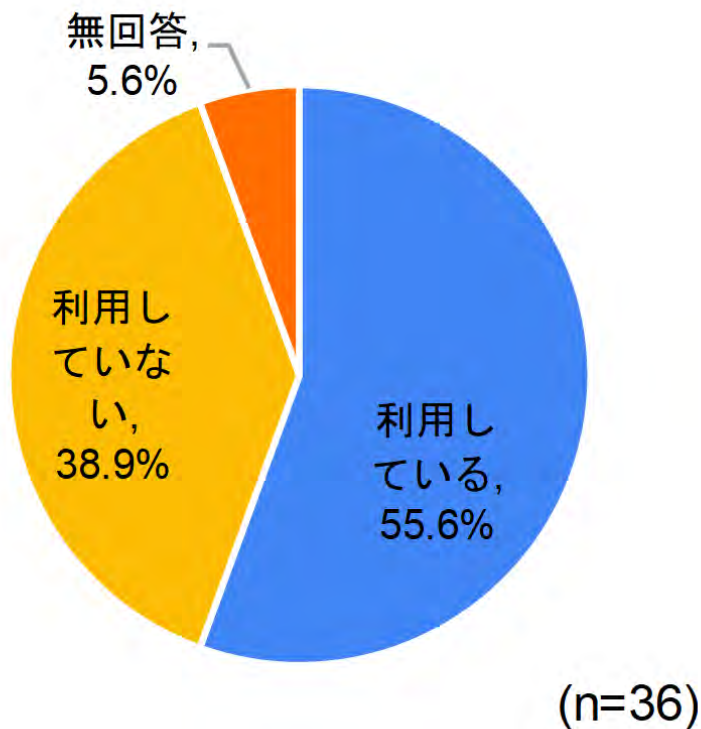


- 第1回アンケートで「生活していて不安なこと」を聞いた際、「友達に会えないこと」（62.3%）が上位に来ていましたが、今回のアンケートでは28.9%となっています。オンライン支援を通してLFAの支援で先生やスタッフ・友達と会うことで不安が解消された可能性も考えられます。
- 一方で、「体を動かしたい」（前回49.2%）や「ストレスが溜まっている」（前回47.5%）は依然として解消されていないことがあります。「学校にいついけるのか不安」等、先行きがわからないことによる不安もあり、今後とも子どもたちの不安や感じていることに寄り添う必要があります。

保護者向けアンケート

❖ 保護者アンケート ①オンライン支援の利用状況

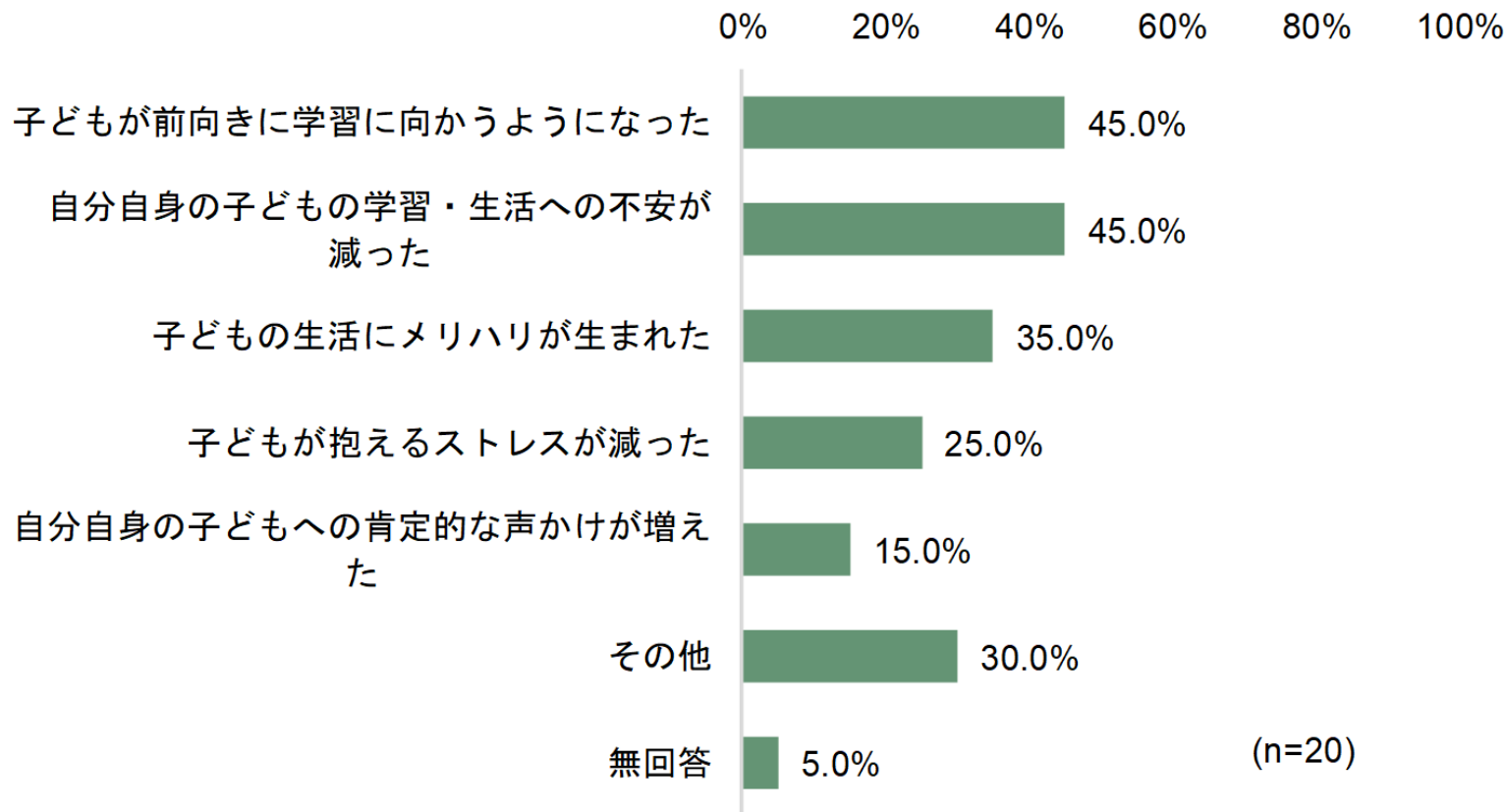
Q1.お子さんは、LFAによるオンラインでのサービスを利用していますか。



- オンライン支援を実施していない拠点も含めた回答となりますが、半数以上の家庭でオンライン支援を利用しています。

❖ 保護者アンケート ②オンライン支援の成果

Q2. 「オンライン支援を利用している」と回答した方にお聞きします。
オンラインサービスを利用して感じる成果として、あてはまるものをすべてお選びください。



- 保護者は、子どものポジティブな変化をオンラインでのサービスを通して実感しています。
- 保護者自身も不安が減る等の成果を感じています。子どもの良い変化が保護者の不安解消にもつながると考えられます。また、現在のオンライン支援では保護者の相談も受けており、その効果も考えられます。

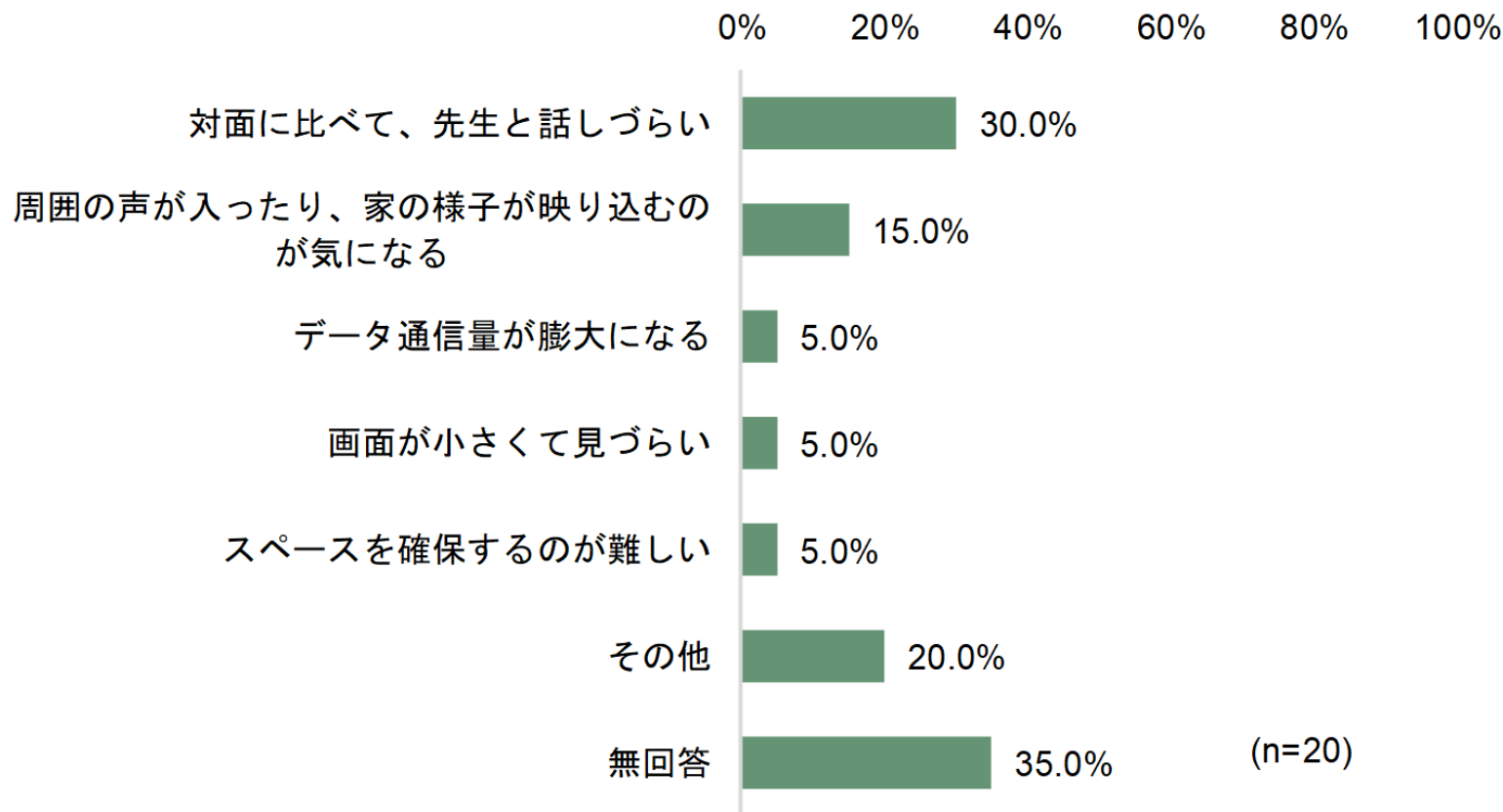
Q2の自由記述の部分

- 教科書が手間なくスムーズに進められている。
- 相談相手ができ良かったと思いました。
- 移動での負担が減った事で体力的に負担が減った。
- 新学年の内容が進められなかったが、LFAのオンライン学習支援のおかげで頑張れるようになった。

- 子どもの学習・生活の両面で成果を感じています。
- 「移動での負担が減った事で体力的に負担が減った」という、オンライン支援ならではの成果も挙げられていました

❖ 保護者アンケート ③オンライン支援で気になること

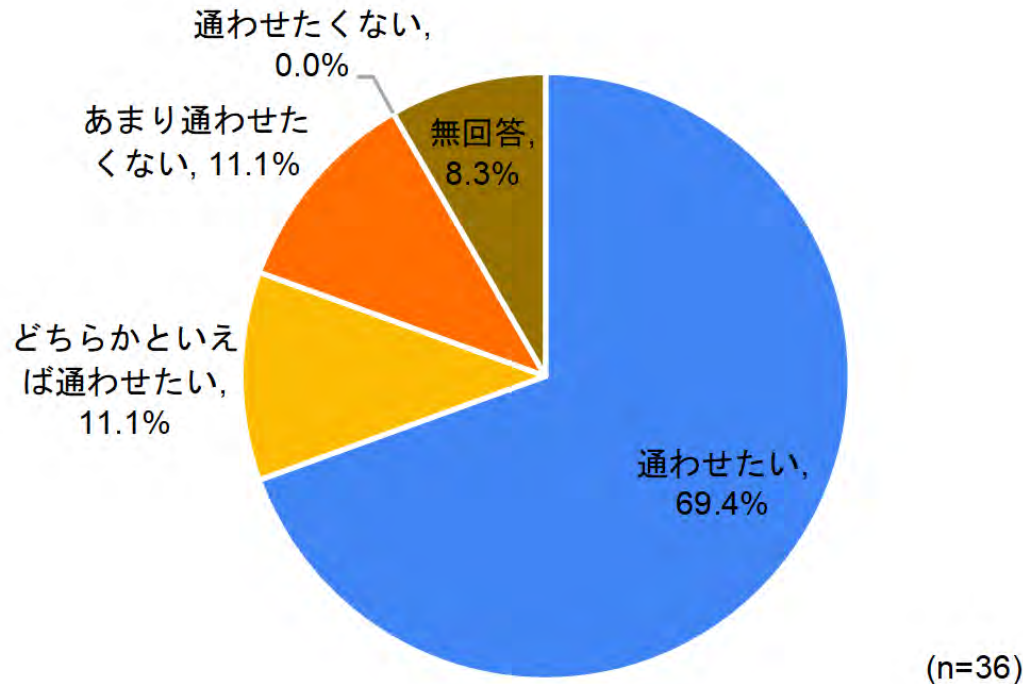
Q3. 「利用している」と回答した方にお聞きします。オンラインサービスを利用する上で気になることとして、あてはまるものをすべてお選びください。



- 多くの保護者が「対面に比べて、先生と話しづらい」ことを挙げています。オンライン支援に切り替わる中でこれまでの対面コミュニケーションとは異なる方法に戸惑いもあるようです。
- また、学習環境や機器・ネットワーク環境の懸念もあります。

❖ 保護者アンケート ④対面支援の希望

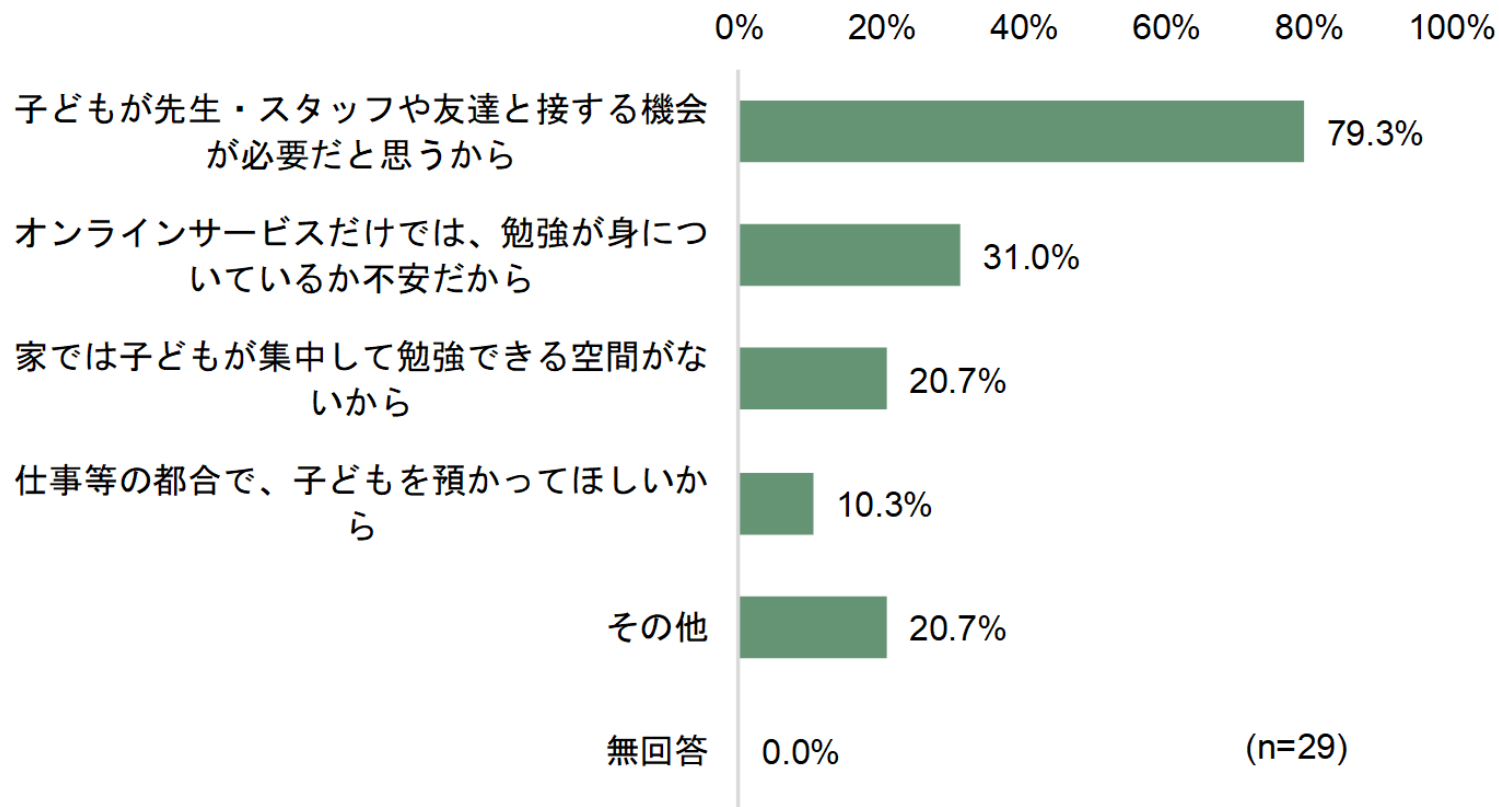
Q4.現段階で対面でのサービス提供を行う現場が再開されたとしたら、お子さんを通わせたいですか。なお、引き続きオンラインでのサービスは継続するものとします。



- 「通わせたい」「どちらかといえは通わせたい」合わせて80%以上の保護者が対面支援の実施を希望しています。

❖ 保護者アンケート ⑤対面支援を利用したい理由

Q5. 対面でのサービスを提供する現場へ「通わせたい」「どちらかといえば通わせたい」と回答した方にお聞きします。
その理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



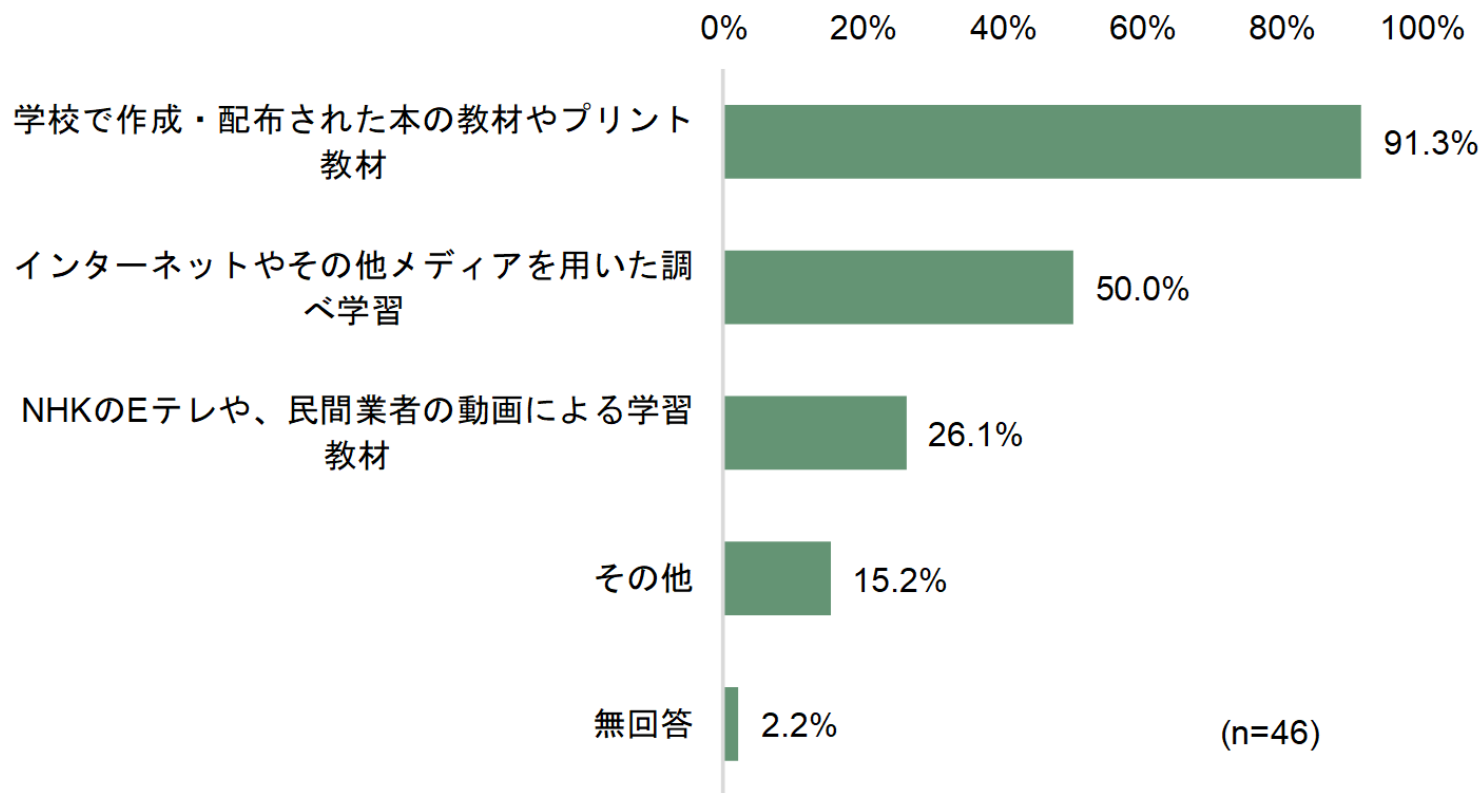
- 多くの保護者が、「(LFAの)先生・スタッフや友達と接する機会が必要」としています。家族以外の人と過ごすことが減っており、人と接する機会が必要と考えているようです。また、LFAの支援に参加して様々な人と接することも重要視していることが伺えます。
- 一方で、オンラインサービスのみでは学習面に不安があるという声もあります。

Q5の自由記述の部分

- 本人がLFAのスタッフ皆さんと会うことを楽しみにしている。
 - 友達に会いたいと癩癢を起こすことがあります。
 - 家庭では何でもできるという安心感があるため、勉強に集中ができない。
なので 通わせたい。
 - 対面でしっかり勉強して欲しいから。
 - 勉強をひとりでは難しい。親が対応するのが時間的に内容的にも難しい。
 - 学校からくる課題やプリントなどを全てオンラインでやるのは難しいので対面でやりたい。
-
- 子どもたちの具体的な様子を教えてくださいました。子どもたちが先生・スタッフや友達に直接会いたいと考えていることや、保護者が学習面で不安を感じていることがわかります。

❖ 保護者アンケート ⑥休校中の宿題

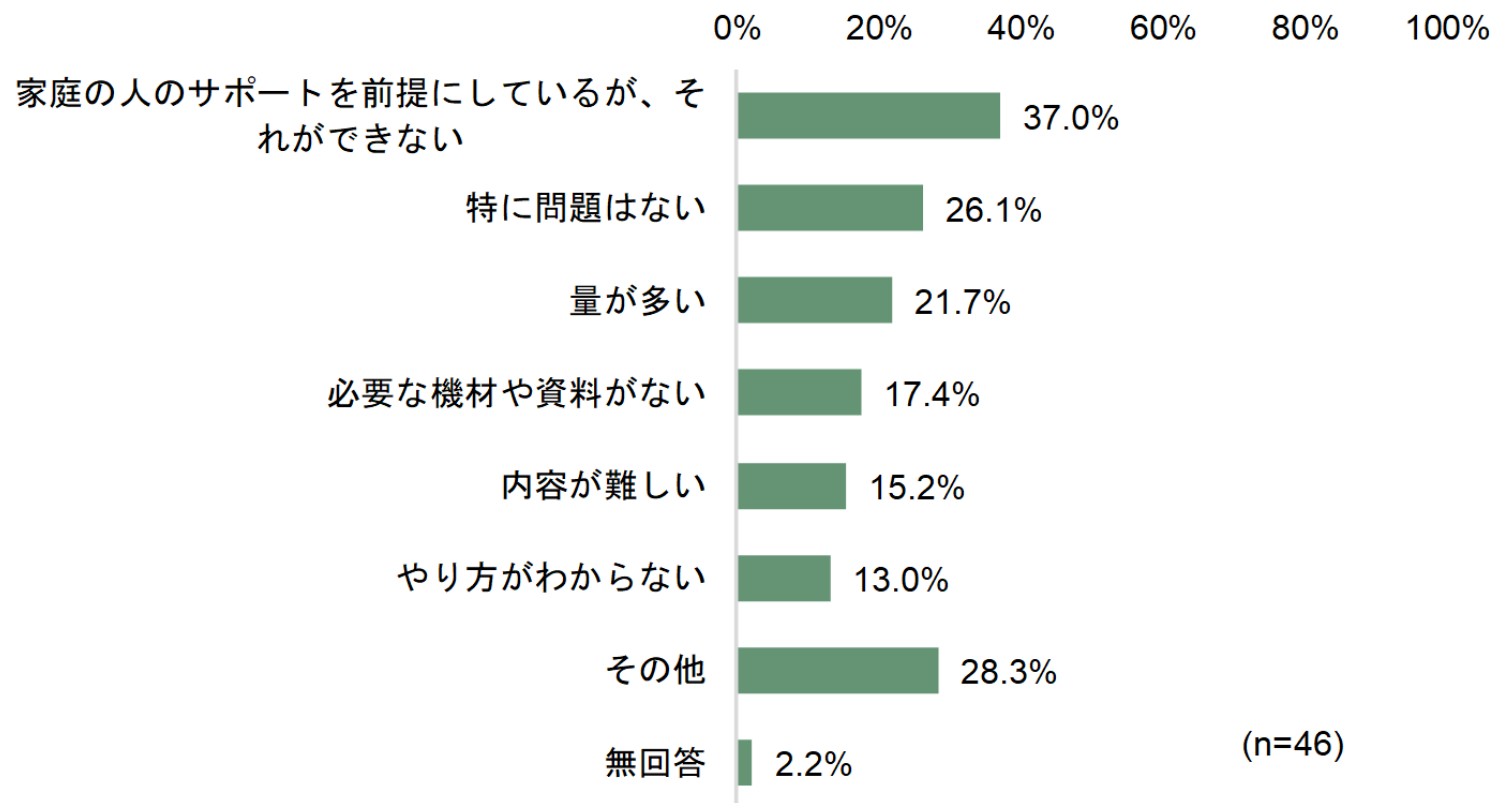
Q6.学校からは、休校期間中のお子様の課題としてどのような宿題が出されていますか。あてはまるものをすべてお選びください。



- 子ども向けアンケートと同様の回答傾向が見られ、LFAに通う子どもたちの多くが、学校から配布された課題に取り組んでいることがわかります。
- オンライン支援のような双方向でのコミュニケーションを行うような指導は、学校ではまだまだあまり実施されていないことがアンケート結果から伺えます。

❖ 保護者アンケート ⑦宿題を進める上での難しさ

Q7.学校から出されている宿題を進める上での難しさは何ですか？
あてはまるものをすべてお選びください。

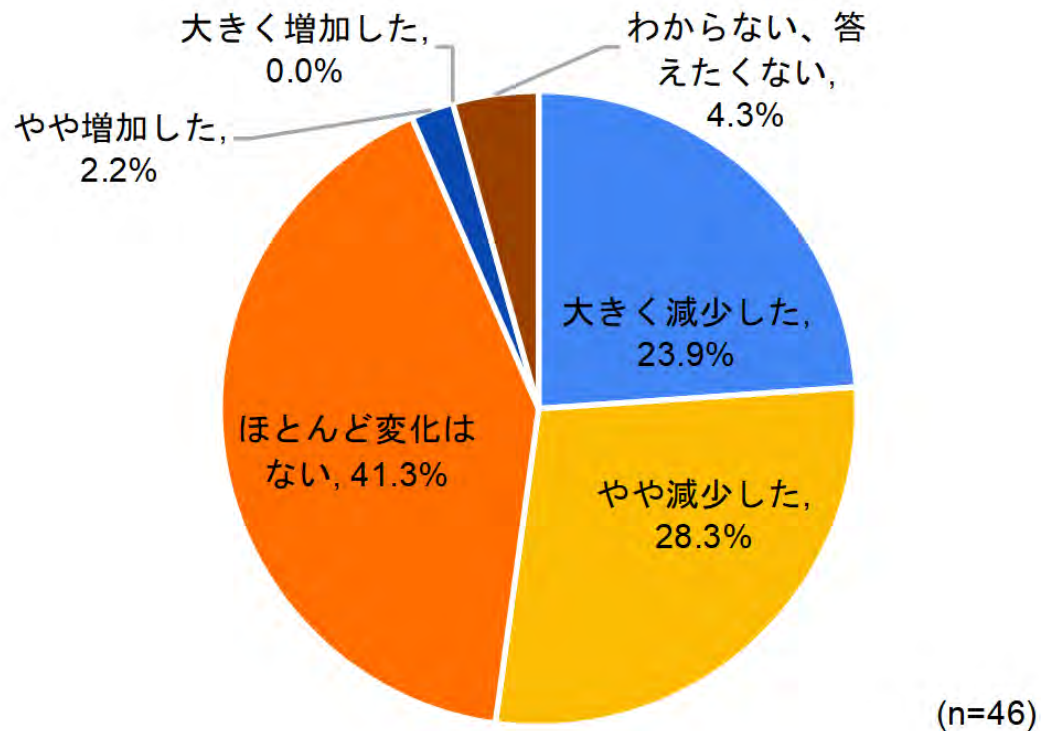


- 子ども向けアンケートと大きく異なる点として、家庭でのサポートが必要という理由が上位にきています。保護者にとって、学校で出されている宿題に対する支援ニーズがあることが伺えます。

Q7の自由記述の部分

- 促してもやる気にならないので、取り組めていない。
 - 学校から出されている課題は、やっていない。小学校の復習が中心！（子どもは中学3年生）
 - 子どもと親と一緒にやらないといけない内容ですが、在宅ワークなのでそれがちょっと厳しい
 - （学校指定の）オンライン授業は、一方的でノートを書く時間がないと本人が言っていました
 - 量が多くて、確認作業やサポートが難しい
 - プリント以外で指示が出ていた際の漏れ
 - ちゃんと出来ているのか心配
 - 寺子屋の先生と一緒にだと楽だが日本語が分からないところがあり難しい。
 - 一般的なタブレットやPCにソフトが対応していない
 - 本人のやる気
 - 家庭で集中させることが難しい
 - 全て親のサポートが必要なところが難点。親でも忘れていた様な箇所は調べながら教えるので先生が教えるよりも不確かで時間がかかる。
-
- 子どもたちの具体的な様子を保護者に教えていただきました。主に、身につけているかわからない、学習内容が本人に合っていないことがある、学習環境を整えることやモチベーションの維持が難しい、といった声がありました。

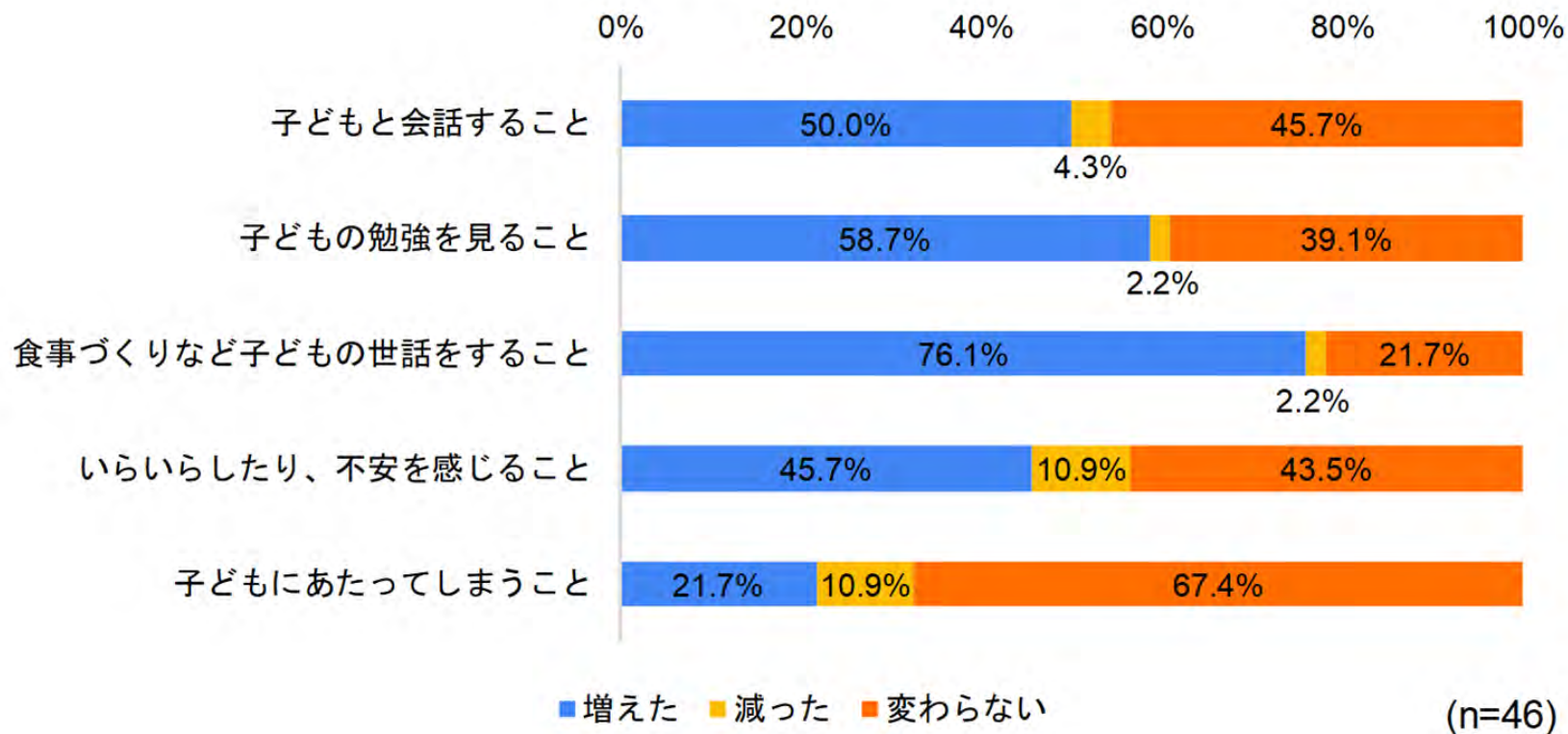
Q8.新型コロナウイルスの影響で、ご家庭の収入に変化はありましたか。



- 半数以上の家庭で収入が減少しています。第1回アンケートで3割以上の保護者が仕事に影響が出ていると回答していましたが、今回のアンケートから、より具体的な状況がわかります。

❖ 保護者アンケート ⑨感染拡大前後の変化

Q9.新型コロナウイルスの感染が拡大する以前（2020年1月ごろ）と現在とで、以下のようなことは増えましたか、減りましたか。



- 「子どもと会話すること」「子どもの勉強を見ること」「食事づくりなど子どもの世話をすること」など子どもと接する時間が増え、「いらいらしたり、不安を感じる」が約5割「子どもにあたってしまうこと」が約2割以上増えたという保護者からの結果が出ました。ここから子どもだけでなく、保護者に対しても支援が必要なことが伺えます。

❖ 個別ヒアリング内容_子ども①

■子どもの声■

- ・「学校の課題で出ている問題が難しい、一緒にやってもらいたい。」（小学6年生本人）
- ・コロナの影響で、学校からの連絡がすべてオンライン（学校のHPなど）になったため、日本語が読めない、または自分で日本語で検索することができず、連絡事項を理解できない。
（中学2年生本人・外国籍）
- ・中3生で受験をするか中高一貫の内部進学をするかで迷っていると言っていた。ただ、コロナで今年度の受験がどうなるかが見えないのが理由で、母親から内部進学をすすめられている。また本人も、内部進学をすることにしようかと思っているそう。
- ・一方で本人の中には、「自分だったらもっといい高校にいけるはずなのに」という思いもあるようで、「まあでも（高校受験は）もういいですよ」となっている状況。
（上記、全て中学3年生本人）
- ・外に出ることが出来ず、「毎日課題ばかりして、毎日がつまらない。」（中学1年生本人）

❖ 個別ヒアリング内容_子ども②

■子どもの声■

- ・休校中のため、学校から出されている奨学金などの書類について学校の先生に聞くことができず、適切な箇所に記載することができない。
- ・学校からオンラインツールに登録するように電話がきたが、どのように設定するのかがわからない上使用方法を本人が十分に理解していないと同時に、学校の教師も首をかしげており、何に使うのか理解していない様子だった。
(上記、全て高校1年生本人)
- ・休校期間の学校の宿題で習っていない簿記の宿題が出てくる。本人からは「学校の指示がわかりにくくてどこまでやっていいのかわからない」「わからないところが多くて自分でやるのが難しい」と言っている。最終的には「わかりませんでした」と付箋で示したうえで空欄で提出することになった。(高校1年生本人)
- ・今年度から中学校に進級する子どもで、休校期間中の課題として小学校範囲の復習教材を渡されたが、小学校低学年から不登校であったため課題の範囲を習ったことがなく、1人で課題を進めることができない。(中学1年生本人)

❖ 個別ヒアリング内容_子ども③

■子どもの声■

- ・フリースクールのオンライン授業が小学生ばかりで逆にストレス溜まる。（中学3年生本人）
- ・最近の生活は昼夜逆転気味（2時くらいまで起きてて、昼に起きたり）で寝てる時間が長くなった。起きてるときはゲーム。（中学1年生本人）
- ・宿題でわからないところがあるから教えてほしいというリクエストがLFA職員へ。コロナの影響で対面で学習はできないことを伝え、「教材を持ってきてもらうか、教材を写真に撮ってメールで送ってもらうかしたら、電話で解説とかできるよ」と伝えた。すると、低速モードだからメールでは添付できない、と本人から返事あり。（高校2年生本人）

❖ 個別ヒアリング内容_保護者①

- ・「日によって違いますが、今の子どもの生活リズムは夕方遅くに起きて、朝7~8時くらいに寝てしまう感じです。」
- ・「課題提出と、新たな課題の受け取りを子どもと一緒に学校へ行きました。初めて担任とも顔を合わせて話す事が出来ました。お互い緊張していた様に見えました。」
(上記、全て同じ中学1年生保護者)
- ・「生活費では上の子供が19才となり、早速児童手当・扶養手当等が激減してしまいました。」
- ・父親の仕事もシフト制で減給されるとの事であまり無理も言えない状況。
(上記、全て同じ中学2年生保護者)
- ・「食料品の配布についてですが、私たちは後回しでいいので、もし余るようであればいいので、いただくと助かります。」 (中学3年生保護者)
- ・日本語がわからないためwifiとタブレットを接続することができないのでLFAが運営する居場所拠点でやってほしい。子ども一人では学校からのオンライン教材の進め方がわからず、質問されるが自分(母)もわからず困っている。
(小学校2年生保護者)

❖ 個別ヒアリング内容_保護者②

- ・学校から決められた期間（3日間）に保護者が登校して、課題の提出&受け取りをしてくださいという内容が学校のHPに上がっていたが、本人と母がHPを確認できていなかった。日本語が上手に読めず母に伝わらない可能性もある。（中学2年生 外国籍の保護者）
- ・「小・中学校でもPC、スマホ、タブレットでの家庭学習をする事になったそうですが、兄妹喧嘩が多く、更に家にはパソコン等ない為、不安でしかありません。」
（小学3年生保護者）
- ・プリントはちょっとずつ進めてるが難しいのか、学校のプリントは難しくてなかなか手が付けられていない。LFAが運営する学習支援拠点のプリントは『これわかる！』と言って机に向かってくれる。
- ・兄（中1）はずーっと部屋にこもってスマホしてる、だからあんま話さない分喧嘩もしない。
（上記、全て小学1年生、5年生双子の保護者）
- ・補導2回目。父親はどうしたらいいかわからず、気持ちの面も、話し合いの持って行き方も相談したい。子ども自身もLFAのスタッフなら信頼しており、心の育成をしてくれるところだと認識しているので、これからも関わりをお願いしたい。（中学2年生保護者）
- ・「コロナでストレスが溜まってしまって。子どもにも当たってしまうんです。先行きが見えないと仕事も大変で。兄弟でも喧嘩が増えているし。いつ頃自粛要請がとけるかが分かるといいんですけどね。」（小学校6年生保護者）

❖ 個別ヒアリング内容_保護者③

- ・外出できないストレスで子どもが白髪に
- ・子どもたちが感染することの恐怖で学校にも外出も一切させられない
- ・母は仕事で一日中いない
- ・子どもが母とのコミュニケーション不足とコロナによる苦しさでぐれてしまいそうと感じている
(以上、全て小学校2年生&4年生保護者)

- ・子どもの学習の停滞 (国語)
- ・家では何か伝えると癩癩を起こしてしまうから、外の世界で学習できる環境が欲しい
- ・生活リズムが乱れる
- ・偏食に戻った
(以上、全て小学校2年生保護者)